

坂を自転車で駆け下りる 右手には海と島 『魔女宅×坂道』

小豆島と「魔女の宅急便」は意外なつながりがあります。それは魔女の宅急便のロケ地が小豆島なのです。そして「ハウキにまたがって写真を撮る」という撮影スポットがバズっています。そこで我々が新たに目つけたのが「坂道」です。小豆島の各地を巡った時「坂道をくだるカーブの先、見えてきた一面の海と島」、これに私達は大興奮しました。そういえばそんなシーン「魔女の宅急便」にもありましたよね？私達の提案は「この興奮」と「魔女の宅急便」を掛け合わせた「魔女宅の自転車に乗って海に見える坂道をくだる」バズリイベントです。



プロジェクトメンバー

芝浦工業大学デザイン工学部 2年
芝浦工業大学デザイン工学部 2年
芝浦工業大学デザイン工学部 2年
香川大学法学部 2年

片桐 昂樹
簗原 慎
中村 祈里
國重 美紗

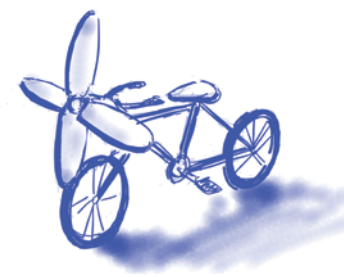
ポイント 「自らの興奮×魔女宅」という発見

「観光をデザインする」のであれば、最も大事なことが「自らが行きたい!」と思うことであるか？です。そこで私達は小豆島の様々な体験を振り返り、何が一番印象的で魅力的であったか考えました。その結果、浮かんできたのが「坂道」です。この興奮と何かを結び付けられないか？そんなことを考えながらたどり

着いたのが「魔女宅」でした。

「自転車で坂をくだる」という行為は普通で考えたら何の魅力もありません。そして、それを観光地化するなんて到底無理です。でも「小豆島から見える風景」と「魔女の宅急便」があれば、それが十分魅力的なコンテンツになりうる。これが私達の大きな発見です。

この発見にもとづいて私達は最適なルートがどこか？を探し、たどり着いたのが魔女宅のバズリポイントであるオリーブ園に続く坂道です。この2つが掛け合わさることで「この地域一帯が魔女宅のバズリポイント化する」というのが私達の狙いです。



感想 明け方まで会議を繰り返し

小豆島の読み方すら覚えて、右も左も分からないまま上陸した私たちを、小豆島の方々は温かく迎えて下さった。特産品を使用した豪華な晩餐会や様々なイベント、地元密着の観光で、私たちをもてなして下さった。そうやって日を過ごす内に私たちは小豆島を愛し、課題などなくても小豆島の魅力を色々な人に伝

えたいと考えるようになっていた。毎日が楽しみで、スマホのアラームよりも早く起きた。どうしたら世界中の人が小豆島に来てくれるか、好きになってくれるかをずっと考えていた。そうして、私たちのグループは『魔女宅×坂道』という答えを出した。小豆島にしかない魅力で小豆島の観光をデザインしたい。自分が肌

で感じた魅力を、他の人にも感じて欲しい。プレゼンテーションの前夜は明け方まで会議を繰り返し、とことんその内容を煮詰めた。観光をデザインするうえで最も大切なことを今回のワークショップで学んだ私たちは、デザイナーとして確実に成長できたと思う。

(片桐 昂樹)